



広報

なほ

市民の友

第651号 毎月1回発行
2005年(平成17年)

4月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 光文堂印刷機

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2005(平成17)年2月末現在	
総人口	313,687(1,900)
男	151,775(992)
女	161,912(908)
世帯数	125,670(1,109)
本 序	91,009
真和志	105,580
首 里	58,918
小 緑	56,280



第17回 那覇市民児童駅伝大会



たすきで友情を 走り継ぐ

スポーツを通して、児童の健全な心身を育むことを目的に、毎年開催されている「那覇市民児童駅伝大会」が、たすきでつなぐチームワークの大会テーマのもと3月6日(日)、奥武山陸上競技場と周辺トリムコースで行われました。

17回目を数えた今大会は、市内の小学校やスポーツ少年団から、56チーム約480名が参加し、学年毎に分かれたA、B、Cクラスの各レースで健脚を競いました。

この日は、日本付近に張り出した強い寒気の影響で、那覇市でも日中の最高気温が12.4度までし上がらず、今年一番の寒さとなりました。また、平均風速も15メートルを超えるなど、子どもたちにとっては厳しい条件、思わぬ「ワカリバイサ」(方言で冬の終わるころの寒さのこと)の中で冬の大会となりましたが、選手たちは互いに励まし合いながら、チームメイトや家族、応援の友人たちの「熱い」声援を背に熱気あふれるレースを展開しました。

Cクラスでチーム優勝を飾り、見事に5区の区間賞も獲得した仲井真サンパチチームの城間美帆さん(仲井真小4年)は「寒かったけど、頑張つて優勝もできたので、楽しかった。来年も優勝を目指します。今日の優勝のごほうび?先生に沖縄ソバをご馳走してもらいます」と笑顔で話してくれました。

主な紙面
平成17年度市の予算
市民と行政の協働によるまちづくり
詐欺犯罪の被害に遭わないように
新エネルギーで持続可能な環境づくり、まちづくり
情報PACK

7 6 5 3 2

市長談 2 TAIDAN 23



お名 岡田 良さん
りよう
沖縄IMS運営委員会会長
昭和37年大阪府生まれ。平成15年那覇市IT創造館オープンに伴い、専属インキュベーションマネージャーとして派遣される。起業を目指す人材の育成のほか、通信コストの低減を図り、那覇市へのコールセンターなどのIT関連企業集積への足がかりを築いた。

翁長雄志市長 岡田さんは、インキュベーションマネージャー(起業家支援者)として、起業家を目指している方々に様々な支援を行っているとのことでしたが、具体的にどのような支援や指導を行っているのですか?

岡田良さん 企業を起そうとしている方や、企業を起して間もない方への支援、そして、きちんとした企業へと成長した後に、いかに那覇市に集積してもらえるかというのを考えて、支援を行っています。やはり、企業としては収益が大切ですので、そのあたりを、ビジネスサポートと呼んで、力を入れて取り組んでおります。

市長 起業を目指す方を支援するということは、人材を育成するということがつながってくると思うのですが、最近の沖縄の若者の活躍は目覚ましいものがあり、私から見ても頼もしい限りですが、人材育成という立場からご覧になって沖縄の若者の資質というのはいかがでしょうか?

岡田 沖縄にコールセンターが集積した大きな要因に、特に女性の勤労意欲が高いというのが上げられると思います。また、特に真面目な若者が多く、育成の仕方によっては、沖縄は人材の宝庫だと思っています。私は起業家を支援する立場から、常々いい人材が居る所には、いい企業がやってくると考えております。それが、そのまま地域や地域産業の活性化にも、つながってくると思います。そういう意味では、沖縄の若者には、大きな可能性があると思います。

市長 今後、人材を育成していく上で、行政の担う役割について、考えをお聞かせください。

手を携えて人材育成

岡田 いい人材を育成していくためには、行政の方々に、インキュベーションという仕事をよく理解していただき、大学や民間のスキル(技術)もしっかり取り入れる形で、産学官が手を携えて取り組み、事業として、施策に反映させていただくことが重要です。

市長 今後とも力を合わせて、頑張っていきたいと思います。今日は、貴重なご意見をありがとうございました。



本紙は「カラーバリアフリー(色覚障壁の除去)」につとめています。

お気づきの点がありましたらお寄せ下さい。
☎862-9942 秘書広報課

12100 再生紙を使用しています。